

# 2023 Annual Report

年次報告書

2023.4.1~2024.3.31



Japan  
Heart





# 医療の届かない国で命を救うこと、 それは日本を救う未来につながっている。

「なぜ日本も苦しい今、わざわざ海外を救うのか」  
— 私たちのような NGO に多く投げかけられる声です。  
確かに今の日本は先進国であることすら危ぶまれ、お金や  
人材、人々の心も余裕がない時代になっています。

しかし、視点を変えてみると、少子化の一途を辿るこの国  
で医療者たちが海を越えてさまざまな子どもを救い、その  
経験がやがて日本の子どもたちへ還元されていくことは、日  
本の未来を救うことにつながっているのです。

「日本発祥の国際医療 NGO」ジャパンハートは、  
世界のために、日本のために、今日も活動しています。



## Vision ビジョン

すべての人が、生まれてきて良かったと思える世界を実現する。

Build a world where everyone can be grateful for the gift of life.

## Mission ミッション

医療の届かないところに医療を届ける。

To deliver healthcare to medically-isolated areas.

私たちは、出会えた一人ひとりの輝く人生のために、  
治療を超えた医療の可能性を追求し続けます。

ジャパンハートは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ジャパンハートは、誰もが「生まれてきて良かった」と思える社会を実現するため、医療・福祉分野をはじめ様々な活動を実施しています。私たちは、子どもたちの未来のために「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」の達成に貢献します。この報告書では、紹介する各プロジェクトに関連したSDGs目標のアイコンを併記しています。

## CONTENTS

ジャパンハートのビジョンとミッション  
SDGs 達成への貢献/目次 ..... 2-3  
吉岡秀人 ジャパンハート最高顧問 メッセージ  
ジャパンハートのあゆみ ..... 4-5  
〈2023年度活動報告〉  
2023年度 TOPICS ..... 6-7  
2023年度の活動ハイライト ..... 8-9  
カンボジア ..... 10-11  
ミャンマー ..... 12-13

ラオス ..... 14  
メディカルチーム (MHR) ..... 15  
災害対策・支援 (IER) ..... 16-17  
地域医療支援 (RIKAjob) ..... 18  
スマイルスマイルプロジェクト ..... 19  
活動へのご支援/広報実績 ..... 20-21  
ご支援いただいた企業・団体 ..... 22  
会計報告 ..... 23





## ジャパンハートのあゆみ

- 1995 ● 吉岡秀人・ミャンマーで医療活動を開始
- 2004 ● 国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立  
《ミャンマー》ワッチェ慈善病院で医療支援活動を開始  
国際長期研修開始（現・国際看護師・助産師研修）
- 2008 ● 《日本》東京事務局開設  
《ミャンマー》サイクロン緊急救援・孤児支援開始  
《日本》僻地・離島支援（現・RIKAjob）開始  
《日本》心の医療事業（現・スマイルスマイルプロジェクト）開始  
NPO法人格取得
- 2009 ● 《カンボジア》医療支援活動を開始
- 2010 ● 《ミャンマー》養育施設DreamTrain開設  
《ミャンマー》視覚障がい者医療マッサージ訓練センター開設
- 2011 ● 《日本》東日本大震災緊急医療支援、復興支援開始  
12月、宮城県石巻「ジャパンハートこども・内科クリニック」開設  
《カンボジア》夢の架け橋プロジェクト開始  
「認定NPO法人」として認定を受ける
- 2012 ● 大山健康財団賞受賞
- 2013 ● 《ラオス》医療支援活動を開始  
《フィリピン》台風30号緊急医療支援
- 2014 ● 《タイ・インドネシア》国際緊急救援事業開始  
外務大臣表彰  
沖縄平和賞受賞
- 2015 ● 《ミャンマー》大洪水 緊急支援  
《ミャンマー》小児心臓病サポート支援開始
- 2016 ● 《日本》熊本地震 緊急支援  
《カンボジア》AAMC（現・ジャパンハートこども医療センター）開院  
大山激励賞受賞（河野朋子）
- 2017 ● 保健文化賞受賞（厚生労働大臣賞／第一生命賞／NHK厚生文化事業団賞／朝日新聞厚生文化事業団賞）  
《ミャンマー》小児生体肝移植プロジェクト開始
- 2018 ● 《ミャンマー》ミャンマー国内初の小児生体肝移植成功  
《インドネシア》スラウェシ島地震 緊急支援
- 2019 ● 《カンボジア》「長沼給食センター」設立、患者への給食提供開始  
《ミャンマー》口唇口蓋裂総合治療プロジェクト開始  
第22回地球倫理推進賞（国際活動部門）、文部科学大臣賞 受賞
- 2020 ● 《日本》令和2年7月豪雨を受け、熊本県で緊急支援  
新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、クラスター発生施設などで医療支援を開始  
国連UNIATF Award2020 受賞
- 2021 ● 《日本》令和3年8月豪雨を受け、佐賀県で医療支援活動  
《日本》全国初の要介護濃厚接触者隔離施設を沖縄県に設置  
第69回 菊池寛賞受賞（吉岡秀人）  
第5回 ジャパンSDGsアワード SDGs推進副本部長（外務大臣） 受賞
- 2022 ● 大山激励賞受賞（神白麻衣子）  
《日本》台風14号・15号 緊急支援
- 2023 ● 《ミャンマー》小児がん治療開始  
《ミャンマー》小児心臓病などの専門医療プロジェクト始動  
《ラオス》小児がん治療プロジェクト始動  
千嘉代子賞 受賞（吉岡秀人）

海外で医療活動をはじめて30年。ミャンマーという国の医療を取り巻く子どもたちの環境は今、最も厳しい状況にあると実感している。ミャンマー各地で起こる戦闘や悪化する経済状況の中、多くの子どもたちは病気になっても行く場所がない。人々に貧困が静かに進行していく。小児病院で働く医療者の数は30%程度に減り、医学生や看護学生も半分近くになってしまった。かつて年間5,000件ほどの手術が行われていた小児病院には外科医が一人もいなくなってしまった。だから私の働く野戦病院のような貧弱な施設でも、小児がんをはじめとする難病の手術をやらざるを得ない。この現実は今後も暗い影を落とし、暗澹たる気持ちになる。

逆にいえば、ミャンマーで医療をはじめて30年の中で、おそらく私たちの重要度とその貢献できうる可能性が今、最も大きくなっているのだと自覚している。だからやらねばならない。

振り返れば日本という国も既に余裕を失い、国民が大切に扱いさえすれば素晴らしかったであろう国民皆保険というシステムは大赤字で、今後厳しい変化を迫られるだろう。さらに医療者は疲弊し、多くの病院では人手不足。既に限界点を突破し、これからはその質を益々低下させていこう。なぜならば、未だ20年前の人口ピーク時そのままの社会インフラを温存しようとしている日本には、ここからさらに就労人口減少の厳しい現実が突きつけられていくから。これから日本の病院は収益減少で潰れるのではなく、労働者不足によって潰れていくことになる。

日本のまた違う意味で小児医療を取り巻く環境も厳しい。かつて私が日本で働いていた頃、出生数は年間120万人だった。ところが年々減り続け、今や80万人を切ってしまった。小児科医や小児外科医は医師にとって最も大切な、その経験値を大きく減らしている。それは医療の質の低下に直結する。

それを解決する一つの提案として、彼らの医療すべき子どもたちの範囲を日本以外にも広げると、その経験値は格段に上がる。ジャパンハートが医療提供している東南アジアの国々では、貧困層の子どもたちは十分な医療を受けることができずにいる。少し思考や生き方のフレームを変えれば、医師たちの経験レベルは格段に上げることができる。そして何より、結果的にそのレベルアップした技術はやがて日本の子どもたちに還元されていく。それが可能になれば、誰も損をしないシステムということになる。

2024年、2025年はジャパンハートにとって記憶に残る年になると思っている。この世界に対してさらに格段に大きな貢献ができる成長の始まりの年になる。その最初の一步が2025年カンボジアに開設する約200床の小児病院である。ここに医療環境が悪い近隣国からの貧困層の子どもたちも受け入れて治療していく。これは私たちにしかできないことだろう。

2016年にカンボジアに開設した病院では、小児がんの生存率を2割から5割に引き上げた。しかしここで満足するわけにはいかない。これをさらに引き上げ、日本の生存率8割に近づけね

ばならない。

人材育成もコロナ禍に直撃され、日本からの医療者のサポートが停滞する中で、現地人医師や看護師たちのレベルアップを急ぎ、ようやく目標に近いところまでこぎつけようとしている。それらを可能にしたのは私たちの情熱以上に、「自分たちがやらねばならない」という彼ら自身の意識の変化だったと今になっては思う。彼らは自ら変わりはじめている。

今後もジャパンハートは東南アジアの国々と日本の若い世代が自ら変化するチカラを与える組織としてあり続けていきたい。その過程では常に、ジャパンハートにしかできない価値とは何なのか?を模索していきたい。

結局、人のために生きることは、自らが豊かになる最も優れたあり方なのだという知恵を当たり前に行っていく、それだけなのだと思う。そして、それに関わる全ての人の人生が少しでも豊かになるようにと、いつも願っている。医療の成果は、それに行動をもって参加した全ての人々の合力であると思っている。

だから、私は今日も行動する。自分のチカラが少しでもこの世界をよくする一助になれば、確かにこの世界に存在した意味はあるのだから。

ジャパンハート最高顧問  
ファウンダー  
小児外科医

吉岡秀人



# 現場に立ち続ける女性リーダーたち

## 今、原点を想う— 時代も人も進化するなかで

たった1台の車で巡回していたあの頃から、  
自分たちの病院を拠点に現地スタッフと医療を届けられるように

ジャパンハートがカンボジアの地方公立病院で巡回診療、手術ミッションを始めたのは2009年。それから15年が経ちました。

2009年当時、私はそれ以前の団体草創期のミャンマー拠点で常駐していた活動を経て、カンボジアで長期ボランティア医師として参加していました。プレイベン州のペイリャン病院に行くのに、今ではプノンベンから2時間足らずで行けますが、この頃は舗装されていない土埃の道を走り、途中、渡し船で川を渡って4時間ほどかかりました。医療者は日本人だけで、現地スタッフは通訳や管理部門を担うアドミニ業務のみの担当でした。

そして、病院がカンボジアのウドンに開院したのが8年前。小児病棟を増築し、小児がん治療を始めたのが6年前です。インフラ整備から始めた今の病院では、停電は頻発、水もしょっちゅう止まりました。それを少しずつ整え、たくさんの日本人ボランティアの手を借りながらカンボジア人スタッフの教育を推進していきました。

今では、年に2万名以上の外来診療、1,000件超の手術、100名に及ぶ小児がんの治療(手術は行わず抗がん剤治療の患者含む)を



カンボジア人医師執刀の手術

カンボジア人中心でできるようになりました。高度医療技術が求められる小児がん手術をカンボジア人だけで行うこともあります。開発途上国では整っていないことが多い電気や水、エアコンといった病院のインフラも、カンボジア人施設管理スタッフで維持管理が概ねできるようになりました。地域の病院に向く活動では、ジャパンハートのカンボジア人スタッフが地域病院の同じくカンボジア人である医療者たちに教えている姿が見られます。

こんな日が来るとは、当時は思いもしませんでした。これまでの皆様一人ひとりの善意と努力が、このように実を結んできたわけです。

来年、私たちはさらに小児高度医療のキャパシティを広げるべく、プノンベン南部のタクマウという都市に新しい小児病院を設立します。一方で、今のウドンの病院は、地域医療支援の拠点として残し、ここから地域の病院へ、日本人、カンボジア人が協力して、これまで培ってきたジャパンハートの技術と心を広めていく場所になります。

これまでの皆様のご協力に感謝しつつ、今後も慢心せず自分たちの力を高めていながら、すべての人が生まれてきて良かったと思える世界をこのカンボジアから実現していきたいと思えます。

### Pick UP 現代ならではの取り組み

時代が進むとともにオンラインを活用する機会も増えました。沖縄美ら海水族館と中継を繋ぎ、入院中の子どもたちに遠く離れた海の生き物をライブで見せる「オンライン水族館」を数回にわたって実施。ジンベエザメやイルカショー、深海生物など、カンボジア国内では見ることのできない生き物の様子に子どもたちは大喜びでした。



神白麻衣子  
ジャパンハートこども医療センター 院長



—小児外科医・吉岡秀人がたった一人ではじめた活動が、今や職種を問わず、国籍をも超え、200名を超えるスタッフが集結し全霊を注ぐ団体となりました。今回はそのなかで、海外・日本それぞれで長年指揮をとる二人のリーダーの声をご紹介します。

## 能登地震支援で実感した ジャパンハートのDNA

長年、災害支援を続けるなかで感じる課題、  
見えた強み、目指す未来

2024年元日に発生した能登半島地震の死者数が280名を超え、2016年の熊本地震を上回ったとの報道がありました。徐々に死者数が増える理由は、新たにご遺体が発見されることに加えて、長引く避難生活による持病の悪化や精神的ストレスによって心身に不調をきたすなどが要因の「災害関連死」です。直近の大地震に限らず、13年前に発生した東日本大震災の「死者数」が、今でも僅かに増え続けていることをご存じでしょうか？熊本地震においては死者数の8割が「災害関連死」であったとされ、発災直後の救命救急医療だけでなく、急性期から亜急性期にかけての避難所における看護・介護やメンタルケアを含めた支援が近年ますます重要となっています。

ジャパンハートはまさにこのフェーズを強みとし、他の医療支援チームが「ひとりでも多くを診る」ことに主眼を置いた巡回診療を行うなか、「一人ひとりと向き合う」ことにこだわり、避難所での常駐支援を基本としています。医療NGOの中でも、海外に医療拠点をもち外科手術や中長期治療を行うという、「目の前のひとりを救うためにすべてを尽くす」客観的には非効率的ともいえる活動を続けてきた組織としての



DNAが、災害支援においても受け継がれているのです。

私自身は東日本大震災からジャパンハートで災害支援に関わり始め、コロナ禍におけるクラスター施設支援や令和二年7月豪雨、この度の能登半島地震支援の陣頭指揮を執るなかで、常に「外部の支援者として、被災現場の代弁者であること」を意識してきました。発災時は即座に役場に駆け付け、自らも被災しながら数カ月間休みなく働き、月の労働時間は300時間を超える「地域の支援者」たち。避難所という最も被災した人々に近い場所で活動するチームとして、住民はもちろんのこと、この先何年も地域を支え続けなければならない地元の医療者や自治体職員にとって、ほんの僅かな期間で私たちにできることは何なのかを考え続けています。

NGOで働くことは、「自分や家族がどのような社会に生きたいか、共感を得て実現する」ことです。南海トラフ地震、首都直下型地震、富士山噴火…もしも新たな災害が、明日起こるとするならば自分や家族が絶望の淵に立った時、手が差し伸べられる仕組みは果たして、本当に十分か。社会に必要な「最後の砦」は、行政や特別な誰かではなく、自らの手で築くものだと私は思うのです。だからこそ、ルールに縛られるのではなく、常にその時、その場所に必要な支援の在り方を模索し、柔軟に実行するチームを私たちは目指しています。



高橋茉莉子  
災害対策・支援セクション部長

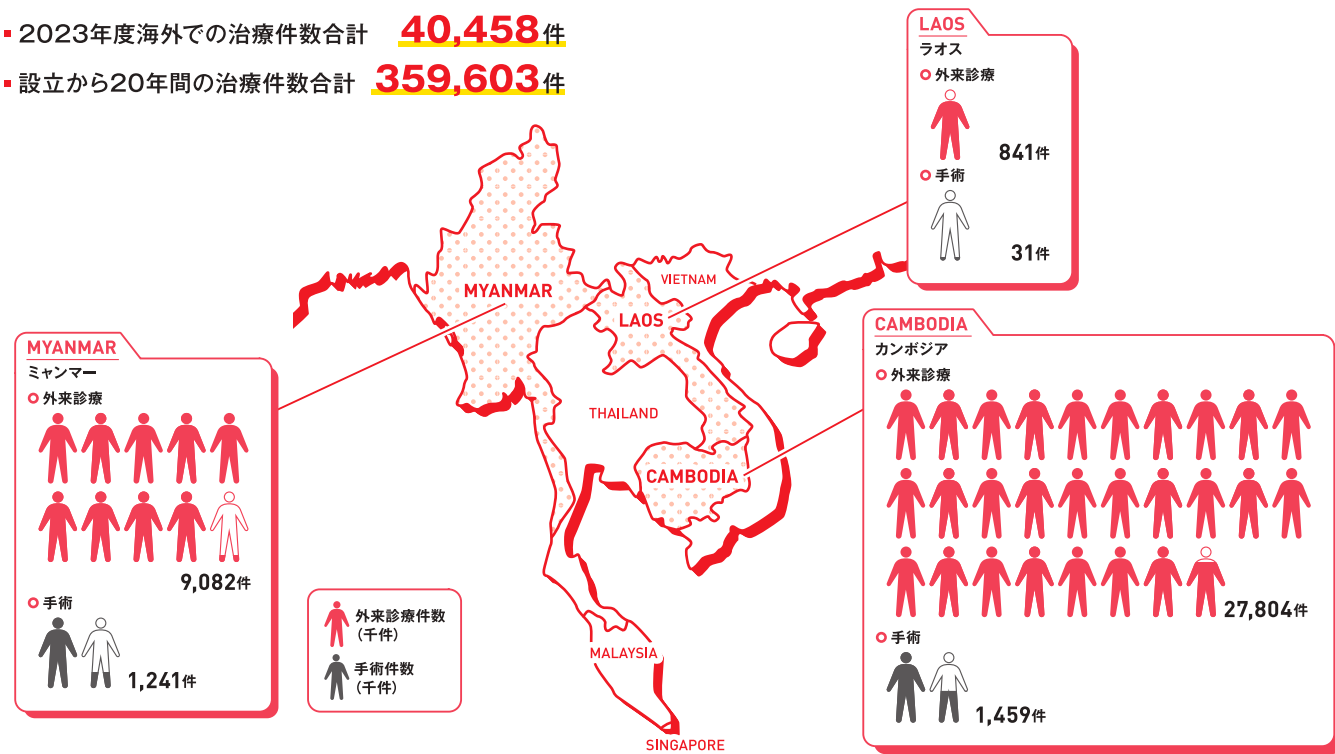




ジャパンハートの活動に共感し、協力してくださった皆様のおかげで活動を維持し、多くの患者さんに医療を届けることができました。

▶ 2023年度治療件数

- 2023年度海外での治療件数合計 **40,458**件
- 設立から20年間の治療件数合計 **359,603**件



2023年度ジャパンハート活動ハイライト



【カンボジア】  
カンボジア人医療チーム単独での初の小児がん手術



【iER】令和6年能登半島地震に対し、人的・物的緊急支援を開始

2023

2024

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月



【iER】  
「STOP感染症大賞」最優秀賞受賞



【スマイルスマイルプロジェクト】大和証券、鹿島アントラーズご協力のもと支援キャンペーンを実施



【ラオス】日本内分泌外科学会とパートナーシップ協定締結(写真は、学会理事長・原先生による手術活動後)



【iER】災害派遣医療チームDMATと災害時の連携に関する協定を締結



吉岡秀人、千嘉代子賞を受賞



【ミャンマー】各疾患に対して取り組む専門医療プロジェクトにおいて、心臓病の子どもを救う活動を開始



「新病院ジャパンハートアジア小児医療センター」記者説明会兼シンポジウム開催



【ミャンマー】  
小児外科専門医の派遣再開



【ラオス】小児がん治療プロジェクト始動



クラウドファンディング 目標達成  
125,875,100円 / 1,046人  
新病院建設のためのクラウドファンディングで1億2,000万円達成



「SDGsジャパンスカラシップ 岩佐賞」医療の部で受賞



シンポジウム「イノベーションが生まれる当事者の作り方」開催(写真左:吉岡秀人、写真右:工藤勇一氏)

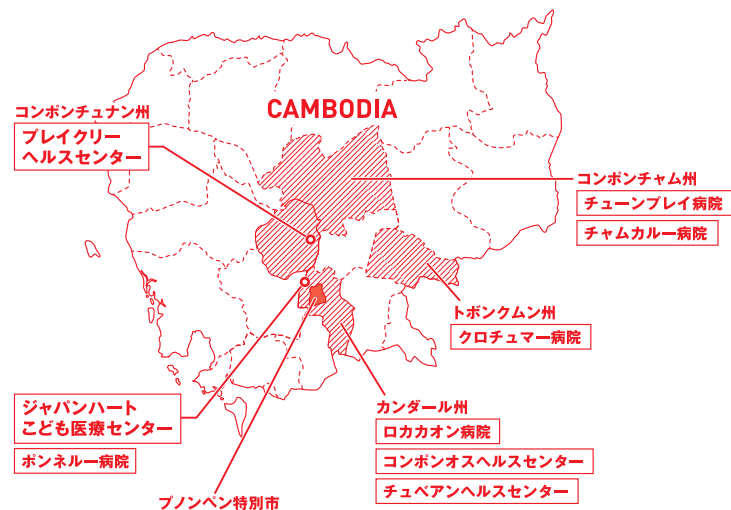




# カンボジア

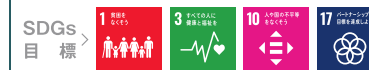
Cambodia

日本人がいなくても高度医療が行える体制へ  
育成の先にある、多くの救える命たち



20年に及んだ内戦の爪痕が  
今もなお深く残るカンボジア。  
知識人の大量虐殺により、  
国連によると、当時残った医師は  
わずか25名と言われている。  
医師はもちろん医療機器などの数も不足。  
1歳に満たない子どもが  
年間約7千人も亡くなっている。

## 医療活動



外来診療数・手術件数ともに前年度比で約120%増。現地スタッフたちの成長により彼らだけで行えるケースの増加が、より多くの患者を救えるようになる結果につながりました。9月、カンボジア人医療チーム単独で初の小児がん手術を実施し、現地人医師のみで小児がん手術を執刀することも増え、医療のレベルも大幅に向上しました。地域への巡回診療活動も継続的に行っており、なかでも農村地域へ出向いての手術活動では、その土地の病院スタッフたちの育成も見据えた医療支援に取り組んでいます。

また、2025年新病院建設プロジェクトも進めており、より多くの子どもの命を救い現地医療者の育成にも注力していくこの挑戦に、カンボジア国内でも賛同者が増え、現地からの信頼と期待度の高さを感じています。



**実績** 【ジャパンハート子ども医療センター】  
 外来診療:成人20,132件、小児3,859件  
 手術:成人990件、小児307件(内、小児がん79件)  
 周産期:妊婦検診2,873件、分娩65件  
 【連携病院/地方巡回】  
 外来診療:成人522件、小児145件  
 手術:成人86件、小児11件  
 周産期:妊婦検診273件

**活動地** ジャパンハート子ども医療センター/  
 カンダール州・ボンネルー病院+ボンネルー地域  
 各ヘルスセンター/チュンプレイ病院/  
 ロカカオン病院/チャムカール病院/  
 クロチュマー病院/ブレイクリーヘルスセンター ほか

## 栄養管理



給食センターを運営するなかで、入院患者に対する給食の提供のみならず、病院外に出向いての栄養指導なども実施しています。カンボジアでは栄養に対する意識が普及しておらず、糖尿病や高血圧などの生活習慣病も増えており、医療者でも栄養面の知識が十分とは言えないこともあります。そこで本年度は、医療者向けレクチャーの実施や、小児がん

病棟において早期の栄養介入につなげるために、入院時の栄養不良のリスク判定制度を導入しました。身体測定による栄養状態の評価に加え、入院前の消化器症状や体重変化のヒアリングを行い、その後の栄養改善に活かしています。

## 周産期医療



国民の平均年齢が若く出生率も比較的高いカンボジアですが、周産期関連の指標は東南アジアのなかでも低い水準であり、日本なら命に危険が及ばない出産でもこの国では母子が命を落とすことも少なくありません。そうした状況を改善するため、ジャパンハートでは隣接する公立病院と連携し、地域の周産期医療の向上を目指しています。

本年度はその隣接連携病院に新しい周産期病棟ができ、より積極的にお産を受け入れられるようになりました。より安全なお産のために、連携病院だけでは難しい吸引分娩や帝王切開のサポートを行うだけでなく、新生児蘇生法などのレクチャーを行うことで医療レベルの向上に努めました。また、地方の保健センターにも出向いて妊婦検診を行っており、月平均約240件もの検診実施に至りました。



## 医療学生育成活動「夢の架け橋プロジェクト」



このプロジェクトは、医師や看護師を目指す一方、主に経済的な事情で進学が困難な学生を支援するジャパンハートの奨学金制度です。2023年度は、学力、性格、家庭の収入状況などを審査し、看護師を目指す1名が新たに選ばれました。この制度を利用して医療者となった奨学金生は累計26名、その多くがジャパンハート子ども医療センターで現地スタッフとして活躍しています。



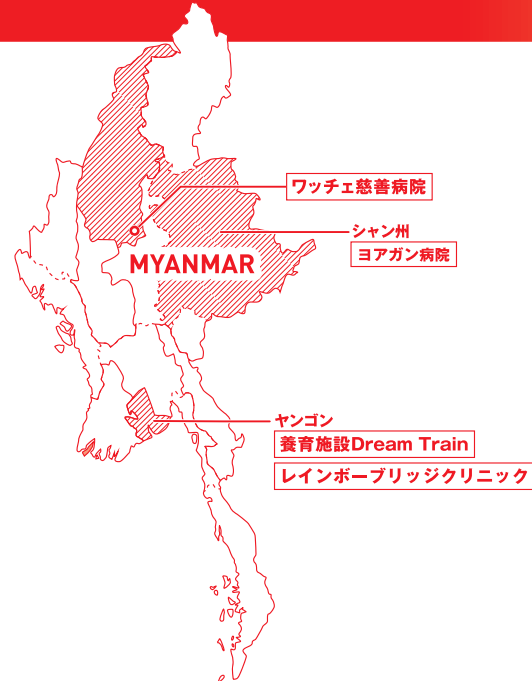




# ミャンマー

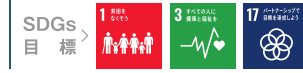
Myanmar

命がけで私たちの元へ来る人々のために —  
医療崩壊下でも、維持ではなく、前進する



**2021年2月のクーデター発生以来、  
医療従事者のボイコット活動により、  
人々が必要な治療を受けられない  
状況が続いている。  
難民・国内避難民は150万人を超え、  
子どもたちは学校に通うチャンスも  
奪われている。**

## 医療活動



ミャンマー国内の情勢は今なお不安定で、医療においても以前より専門家の少なかった小児医療分野は厳しい状況が続いています。そしてワッチェ慈善病院の周辺地域では紛争が続き、多くの住民たちが避難生活を余儀なくされているにもかかわらず、治療を求めて患者さんが続々とやって来ています。今のミャンマーでは医療を受けられることは当たり前ではなく、病院を受診するだけでも相当の覚悟と決意が必要なのです。

そのような中で私たちの元へ来る患者さんたちに、高度で安全な治療を提供するため、現地の医療者をミャンマー国内のみならず、カンボジアや日本の病院に研修生として派遣し、小児外科・超音波検査・小児麻酔・小児がん看護などについて学べる機会を設けました。その結果、ワッチェ慈善病院では現地医療者のみで多くの治療が提供できるようになりました。

また、高度専門医療を必要とする病気の子どもたちを救うべく、コロナ禍よりストップしていた日本の小児外科専門医による小児専門病院での治療や技術指導も再開しました。現状はまだジャパンハート拠点のリソース(ワッチェ慈善病院の環境、現地スタッフ)だけでは難しい症例の手術に挑み、現地医療者たちが横でその技術を吸収すべく臨む姿は真剣そのものでした。さらに2023年12月には、心臓病の子どもたちを救うプロジェクトもスタート。日本の小児循環器専門医2名を小児病院に派遣し、心臓カテーテル治療を2日間で14名の心臓病の子どもたちに実施することができました。口唇口蓋裂総合治療事業では、育成してきた現地医師たちが地方病院を巡回して年間183件もの手術を成し遂げるなど、新たなフェーズに突入しています。

このように一人でも多くの子どもを救うべく活動していますが、それでも生後間もない赤ちゃんも含めてまだまだたくさんの子どもたちが治療を待っているのも事実です。私たちは厳しい現実と向き合いながら、自分たちが今するべきことを行い、この先できることを考え続けていきます。



**実績** ワッチェ: 外来診療 7,296 件、手術 953 件  
巡回診療: 外来診療 626 件、手術 80 件  
レインボーブリッジクリニック: 診療 1,160 件  
専門ミッション: 口唇口蓋裂総合治療事業手術 183 件  
小児外科手術 11 件  
小児心臓病治療 14 件

**活動地** ワッチェ慈善病院、ヨアガン病院、レインボーブリッジクリニック(ヤンゴン)、その他政府系病院

## 養育施設 Dream Train (ドリームトレイン)



Dream Trainの子どもたちが、さまざまなフィールドで活躍する1年でした。春には、U-18ヤンゴン管区サッカー大会で代表メンバーに選ばれた男の子が、ゴールキーパーとしてチーム優勝に大きく貢献するというビッグニュースが舞い込みました。冬に行われたU-25でも、在所している2名が所属するチームが優勝を果たします。



学業面では、施設初となる芸術大学生が誕生しました。学業と絵画という二つの軸をもって進学した彼の存在は、他の子どもたちに新たな道を示す希望となりました。また、日本語能力試験で2番目に高い難易度で認定率も低くなる2級に挑戦した女の子が、見事合格を果たします。

そして、年度末に迎えた大学入学試験。進学希望者11名中5名が合格を勝ち取りました。ミャンマーでは、11年制だった基礎教育課程が2023年度より12年制となり、カリキュラムも改訂されました。例年以上に対策が難しい中、受験生は試験当日まで全力を尽くしました。残念ながら不合格だった子どもたちは、試験後すぐに次の進路に照準を定め、歩みを進めています。自らの考えに基づいて行動を起こす力をもつ彼らの、次のステージでの活躍が楽しみです。





# ラオス

Laos

## 自分たちの国の人々は自分たちの手で救う。 着実な成果と新たなステージへの挑戦



ラオスでは、二つの新たなステージを迎えました。北部ウドムサイ県で継続してきた「甲状腺疾患治療および技術移転プロジェクト」は、新たに第2フェーズとしての活動を開始しました。日本内分泌外科学会の先生方にご協力いただき、手術活動ならびに術前・術後診断の指導を行うなど、技術移転により重点を置いています。現地の医療者たちも、プロジェクト終了後は自分たちの手で甲状腺治療を続けられるよう、更なる専門的な知識・技術の習得に積極的に取り組んでいます。その姿勢は成果として確実に表れており、手術活動におけるラオス人医師の執刀件数は、第2フェーズの3年間を通じた目標件数に対し、初年度だけで既に57%に達したほか、ラオス人看護師だけで実施できる術前・術後ケアの幅も徐々に広がってきました。「自分たちの国の人々を自分たちの力で救いたい」という彼らの想いに尊敬の念を抱くと同時に、誇らしく感じる1年でした。

また、小児医療に特化したもうひとつのプロジェクトも、ラオス政府との覚書締結を経て正式にスタートしました。国内唯一の子ども病院とパートナーシップを組み、小児肝腫瘍を中心と

した固形がん手術活動を行う予定です。初年度である2023年は、各地の病院や保健所を訪問しプロジェクトの広報活動を行ったほか、手術に必要な医療物資の準備を進めました。東南アジアでも5歳未満の死亡率が特に高いラオス。一人でも多く、この国の未来を担う子どもに医療を届けるために、2024年度からは本格的に医療活動を推進していきます。

ラオスは東南アジアのなかでも人口が少なく経済成長の歩みも遅いため、「忘れられた国」とも呼ばれてきました。しかし、私たちはこの国で暮らす一人ひとりに人生があり、その暮らしを守るために奮闘する人々がいることを知っています。ジャパンハートはこれからも彼らと共に歩み、命と心を救う活動を続けます。



**実績** 診療841件、手術31件

**活動地** ウドムサイ県病院  
国立子ども病院（ヴィエンチャン特別市）

# メディカルチーム

MHR: Medical Human Resources



## ▶新体制での再出発

ジャパンハートでは、2004年の団体設立当初より開発途上国、2008年より日本の地域医療現場での活動を希望する日本人看護師を受け入れ、20年間で300名近くの看護師・助産師を輩出してきました。彼らは今、ジャパンハートでの経験を糧に、アフリカや紛争地における人道支援をはじめ、日本で医療の届きにくい離島・へき地、災害医療への従事、さらなる専門性を目指して大学院へ進学するなど、多岐にわたる分野で活躍しています。

一方、「患者さん一人ひとりに寄り添う、心を救う医療」を大切にしているジャパンハートの考えもあり、これまで看護師・助産師を対象に人材開発を行ってきましたが、本年度より医師やコメディカル（医師・歯科医師以外の医療従事者）も対象とした新たな体制で再出発しました。その背景には、海外での事業拡大や現地人医療者の育成強化に伴い、現場で即戦力となる医療者のニーズが高まったことなどがあり、看護師・助産師のみならず、医師やコメディカルも含めてワンチームとして課題や問題をシェアし、ともに活動することを目的としています。

初年度の取り組みとしては、チームとしての在り方や目標の周知、内部連携強化を図ったほか、イベントなどの広報活動を通じた医療者のリクルートにも注力しました。



## ▶能登半島地震への緊急帰国支援

メディカルチームは、カンボジアのジャパンハートこども医療センターを中心に活動していますが、カンボジア国内でより医療の届かない地方へ出向き、現地病院での医療支援やスタッフへの指導、ときにはミャンマーやラオスの活動などにも柔軟に対応します。

1月の能登半島地震発生時は、MHR本部と災害支援チームで連携をとって必要な人材ニーズを割り出し、さらに海外各国と迅速なコミュニケーションをとることで、メディカルチームの海外スタッフたちを緊急派遣することができました。

さらに、かつてジャパンハートで活動して現在は別のフィールドで活躍する看護師たちも駆けつけ、途上国や離島というリソースの限られる環境下で培った総合力を被災地でも発揮しました。

**実績** 参加数（旧「グローバル看護師・助産師コース」、長期ボランティア含む）：  
看護師 16名、助産師 4名、医師 13名、  
コメディカル 3名

**活動地** 国内：新庄徳洲会病院／長崎県対馬病院／  
気仙沼市立病院  
海外：カンボジア／ミャンマー／ラオス  
災害支援：能登半島地震における各避難所





# 令和6年 能登半島地震緊急支援



## 災害対策・支援

iER : International Emergency Relief



### ▶ 令和6年能登半島地震緊急支援

2024年1月1日に能登半島で発生した「令和6年能登半島地震」を受け、発災直後より現地の支援ニーズ調査を開始し、1月3日には東京から看護師を中心とする医療チームを派遣しました。特に報道で大きく取り上げられていた輪島市や珠洲市と比較して、同様に甚大な被害を受けた能登町の情報は少なく、支援チームの介入も相対的に手薄と判断したことから、4日より能登町松波中学校避難所での常駐支援を開始しました。

今回の地震は発災が元日であったことから、帰省や旅行者で平時人口の3~5倍にも上る方々が被災したと言われていす。全校生徒数が50名に満たない松波中学校においても、想定をはるかに上回る1,000名以上の避難者が発災当初から押し寄せ、体育館だけでなく多くの方が車中泊を余儀なくされて



いました。現地では、帰省中で避難しているという看護師数名が不眠不休で看護と介護にあたる状況であったため、

ジャパンハートは到着直後から活動を開始。大雪で凍えそうな体育館では、高齢者の転倒や持病の悪化による救急搬送が相次ぎ、対応に追われるなかでも区画整備や発熱者のゾーニングなど医療チームとして避難所の環境整備を行いました。

その後、自治体災害対策本部からの要請やNPO間での連携により、輪島市や珠洲市、七尾市においても支援を行い、撤収までに計7カ所の避難所および1カ所の診療所に対して看護師常駐支援を行ったほか、輪島市門前地区においては医師・看護師による15カ所以上の避難所巡回診療を実施。フェーズが変わり多くの医療支援チームが2月上旬から末にかけて撤収していくなか、ジャパンハートは4月20日まで、医療の域を越えて人々に安心を届けるための支援を継続しました。

ジャパンハートの災害支援のモットーは、最も被災者の方々に近い場所で活動する団体として、「外部の支援者として現場の代弁者である」こと。避難者だけでなく、ご自身も被災しているながら地域のために奔走する自治体職員の方々に寄り添い信頼関係を構築するため、個々人の活動期間を長く確保するための調整と一気通貫した情報連



携に努めており、活動に参加した79名の平均活動日数は11日間と、72時間交代を基本とする他の医療チームと比較して長期であることが特長です。その分、活動メンバーには負荷がかかりますが、全国の登録ボランティアに加えて海外拠点からも多くのスタッフが駆けつけ、人的・物的リソースが足りないなかでも最大限に医療を届ける活動を行いました。

**実績** 上マップ記載の通り  
参加人数：79名（医師・看護師・調整員）

### ▶ 「災害版Heart Stock」拠点拡大

避難所などで特にきめ細やかなサポートが必要な要配慮者向け支援パッケージの備蓄を、従来の富山県および佐賀県に続き、本年度は新たに西日本各地へのアクセスに適した岡山県に実装しました。その結果、能登半島地震においては、富山県・岡山県に備蓄していた同物資を1月2日より、富山



県氷見市および射水市、石川県中能登地域や医療チーム派遣先の避難所に迅速に寄贈することができました。

### ▶ DMATとの災害時連携協定を締結

2023年8月、国立病院機構本部DMAT事務局と「災害時の連携に関する協定」を締結し、調印式を実施しました。日本国内で大規模災害が発生した場合、または感染症が流行した場合などにおいて、相互の緊密な連携と協力を推進することにより、被災現場の課題に適切に対応し、災害時医療体制の運営に寄与することを目指します。

### ▶ iER登録ボランティア研修

いつ起きるかわからない災害時にも対応できる人材を育成するため、2回の新規登録ボランティア研修に加え、既存登録者向けに3回のステップアップ研修を実施しています。また、2024年2月に行われた日本災害医学会では、登録ボランティアによるサポートのもとジャパンハートの災害支援活動について発表を行いました。





※撮影地：長崎県対馬



## 地域医療支援／RIKAjob



### ▶対馬で新プロジェクトを実施

RIKAjob(リカジョブ)は、医療者不足が深刻な国内の離島・へき地へ看護師・助産師を派遣し、日本の地域医療の課題に取り組むプロジェクトです。無医村診療・訪問看護・退院後訪問など、都会や大きな総合病院とは異なる経験を積むことができ、また医師の判断ありきで動くのではなく自分たちで判断して動く場面も多いこともあり、看護師個々のキャリア・スキルアップにも繋がっています。

本年度は、医療施設において問題の発生しやすい労働環境と人材不足、双方の課題解決に向けたプロジェクトに注力した1年でした。RIKAjobの連携病院・長崎県対馬病院と手を組み、「対馬プロジェクト」として2023年4月に始動。ジャパンハート最高顧問で自身も勤務医時代に離島で勤務していた経験をもつ吉岡秀人が直接指揮を執り、定期的に病院を訪問し現地スタッフと顔を合わせながらプロジェクトを進めました。

具体的には、離職率の高い看護師が長く働きたくなるような職場環境の改善、病院自ら医療者を集められる仕組みの構築をミッションとして、もともと現地で働いている地元の幹部

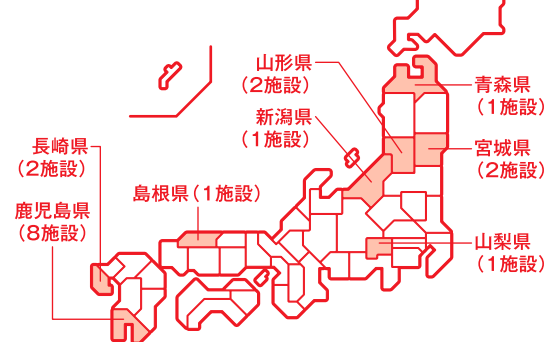


看護師とRIKAjobから派遣された看護師とともに毎月ミーティングを実施。労働面では両立場の声を吸い上げたうえで改善策を現場に導入し、また人材面では、島民にとっては当

たり前のことを「ならではの魅力」として発信できるRIKAjob看護師の視点を活かして、彼女らが中心となって広報強化を推進し、SNS運用の開始や県外へのPRイベントも実施しました。

日本では、ますます進んでいく高齢化社会において、病院が診る患者数は増える一方、労働人口の減少などにより看護師不足はさらに深刻となります。このような時代だからこそ、単なる人員補充に留まらず、看護師一人ひとりの働き方・生き方と向き合うRIKAjobとして、医療業界を取り巻く課題の改善に努めていきたいと考えます。

### ・支援対象病院



※対象病院名は「RIKAjob」ホームページからご確認ください。

**実績** 連携病院：18施設  
派遣者数：48名(2008年からの累計のべ数 533名)

## スマイルスマイルプロジェクト



### ▶闘病中の子どもたちの「心を救う医療」で拡がる支援の輪

小児がんと向き合う子どもとその家族を対象に、医療者から離れることで不安を抱える旅行・外出を楽しむことができるよう、ジャパンハートの医師や看護師が付き添うことでサポートするスマイルスマイルプロジェクト。本年度は、のべ371名の子どもとご家族をサポートし、120名のボランティア(SSPサポーター※)にご協力いただきました。これは当プロジェクト発足以来最多で、新型コロナが落ち着きを見せる社会のなかで、ますます多くの方から注目されていることを実感しています。近年右肩上がりの実績となっております、

入院などの理由から貴重な外出機会を私たちに託してくれる方々の期待に応えるべく、「量」以上に一つ一つのサポートに対する「質」を引き続き大切にしていきたいと考えます。

また、企業との協働も推進しています。例えば、イベントにおける企画運営のプランニングやボランティアスタッフとしての参加などを通じて、社員の方々から活動への理解・共感を深めていただき、さらなる可能性を共に考えていく—このような「非営利団体と支援企業」の枠を越えた体制の構築を目指します。

**実績** 個別のご家族に付き添う企画：39件  
複数家族を招待する協賛企業によるイベント：15件

※SSP:スマイルスマイルプロジェクトの略称

### ⇄ご家族からのお便り

#### 病気で元気のなかった娘が笑顔で言ってくれた一言

約2か月半の過酷な闘病生活に、弱音も吐かず懸命に向き合う娘へ何かできることはないかと思いつけたのが、スマイルスマイルプロジェクトでした。娘の希望で退院したらディズニーに行きたいと言っていたものの、ほぼ寝たきり状態の娘を連れて出掛けるなんて本当に可能なのか、心配と不安でしかありませんでした。しかし、LINEでのやり取りや、直接自宅まで来て面談などをさせていただき、旅行を実現できるように問題点などを一つ一つ解決してもらえたおかげで、不安な気持ちはいつしか楽しみに変わっていきました。ディズニーでは手厚くサポートしてもらえたおかげで、病気になって以来ずっと元気のなかった娘からはたくさんの笑顔と笑い声が溢れ、帰りの車中で旅行の感想を聞くと、輝いた笑顔で「100%大満足!!とっても楽しかったよ!!」と。感動に満ち溢れる瞬間で、高まる気持ちを抑えるのに精一杯でした。本当に、本当にありがとうございました。皆様のおかげで、たくさんの素晴らしい思い出ができました。家族全員の宝物です。





## 活動へのご支援

私たちの活動は、皆様からのご寄付によって成り立っています。

いただいた寄付金・募金は「医療の届かないところに医療を届ける」ため、大切にに使わせていただきます。

### ジャパンハートは認定NPO法人です。

#### ジャパンハートにご寄付いただくと、税制上の優遇が受けられます。

所得控除と税額控除から、いずれか有利な方を選択することができます。

所得控除の場合、(寄付金額-2,000円)×40%の額が所得税から控除されます。

ジャパンハートへの寄付は、**紺綬褒章授与申請の対象**となります。

個人の方は500万円以上、法人は1,000万円以上のご寄付が申請の対象で、事前申請による分納も可能です。

詳しくは東京事務局(電話:03-6240-1564 メール:publicity@japanheart.org)までお問い合わせください。

#### 《控除の対象とならないもの》

- 会費
- イベント/ボランティア活動/研修などの参加費
- 募金箱への募金
- 匿名寄付

## 継続的な寄付(マンスリーサポーター)

1日100円から、心を救う医療を届けることができます。

#### 【ベーシックプラン】

3,000円/月

1年間で子どもの血液検査  
約240回分

#### 【スタンダードプラン】

10,000円/月

1年間で子どもの  
局所麻酔の手術10名分

#### 【プレミアムプラン】

100,000円/月

1年間で小児がんの子どもの  
入院治療費用1名分

プランに応じて一般には公開していない活動詳細および現場の声など特別コンテンツの閲覧、サポーター限定講演会へのご招待など、ジャパンハートや国際協力/医療支援をもっと身近に感じていただける御礼の場をご用意しています。詳しい御礼の内容は、ホームページをご覧ください。

#### ▶ オンライン決済(クレジットカード)

団体ホームページ「寄付をする」ページへ。  
「継続的な寄付」を選び決済をお願いします。

#### ▶ 口座からの自動引き落とし

電話、メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて口座  
振替用紙をご請求ください。

継続的な寄付に  
関するページは  
こちらから▶



## 今回のみの寄付

関心のある課題、支援したい分野を選択してご寄付いただくことができます。

#### ▶ オンライン決済(クレジットカード)

団体ホームページ「寄付をする」ページへ。「今回のみの寄付」を選び決済をお願いします。

#### ▶ 口座への振込み

#### お申込み方法

〈ゆうちょ銀行からお振込みの場合〉

銀行名 ゆうちょ銀行  
口座名義 特定非営利活動法人ジャパンハート  
記号番号 00910-3-166806

〈他の金融機関よりお振込みの場合〉

銀行名 ゆうちょ銀行  
口座名義 トクビ ジャパンハート  
預金種目 当座  
店名 ○九九店(ゼロキュウキュウ店)  
店番 099  
口座番号 0166806

## 遺贈での寄付

遺言書にすべて、または一部の財産の受取人としてジャパンハートをご指定いただくことで、大切な資産を未来のためにお役立ていただけます。

詳細資料をご用意しておりますので、以下までお問い合わせください。

※必要な手続きを取ることで、税法上の特例措置が受けられます。

※実際の手続きを行う際は、弁護士などの専門家や、信託銀行などの専門機関への相談をお勧めします。

<お問い合わせ先>

東京事務局 遺贈担当 03-6240-1564 メール:izou@japanheart.org

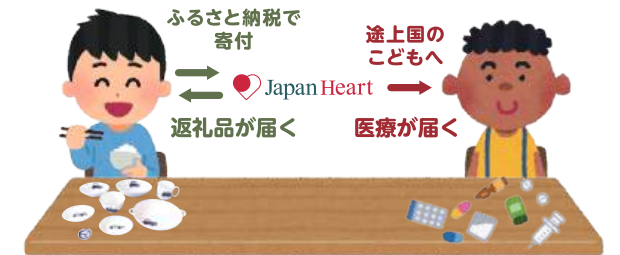


## ふるさと納税で寄付

ジャパンハートが事務所を構える佐賀県では、NPO団体を支援する制度を実施しています。

ジャパンハートを指定して佐賀県にふるさと納税(寄付)をすることで、寄付額の85%がジャパンハートの活動に活用されます(15%は県の事務費や県民協働の地域づくりに活用)。

ふるさと納税を利用した寄付金のうち、2,000円を超える部分については、所得税の還付や住民税の控除が受けられます。(一定の上限があります)



## 身近な物で寄付

書き損じはがき30枚で、5歳の子ども10名に抗生物質の注射をすることができます。

① 古本で寄付する: 読み終えた本、DVD、CDなど。

④ 洋服で寄付する: 使わないブランドものの洋服など。

② 物品で寄付する: 未使用切手や使わなくなったカメラや携帯など。

※ご寄付いただく物の送付先は各協力事業者になります。詳細は、団体ホームページ「支援する」ページからご確認ください。

## ジャパンハートアドバイザーボード



本田 圭佑  
挑戦者



田村 淳  
ロンドンブーツ1号2号  
タレント



吉田 正樹  
株式会社ワタナベエンターテインメント  
代表取締役会長



小松 成美  
作家

アドバイザーの方々には、イベントへの登壇やマンスリーサポーター限定コミュニティ「ジャパンハート部」Facebookグループへのご参加などを通じて、私たちと活動をともにし、応援していただいています。



樹林 伸  
マルチコンテンツ  
クリエイター



山田 進太郎  
株式会社メルカリ  
代表取締役CEO



望月 理恵  
株式会社セント・フォース 取締役  
フリーアナウンサー



松浦 美穂  
TWIGGY. 主宰  
クリエイティブ・ディレクター

## メディア実績

### これまでの主なTV出演

- 2009~11年 毎日放送「情熱大陸」計3回出演
- 2013年 NHK BSプレミアム「輝く女」
- 2014~19年 テレビ東京「未来世紀ジパング」計4回出演  
内閣府テレビCM 出演
- 2017年 フジテレビ「あいのり Asian Journey」
- 2018年 テレビ東京系「世界ナゼそこに?日本人~知られざる波瀾万丈伝~」
- 2020年 テレビ東京「カンプリア宮殿」
- 2020年 フジテレビ「石橋、薪を焚べる」
- 2022年 NHK BS1「最後の講義」
- 2023年 読売テレビ「グッと!地球便」


### 2023年度の主な実績

- 6月 「NHKニュースおはよう日本」
- 6月 西日本新聞「ミャンマー・機能不全に陥った医療・日本のNGOが支援に奮闘」
- 6月 朝日新聞「生まれた場所で助からぬ命ある現状変えたい 沖縄出身の医師、カンボジアで小児がん治療」
- 8・11月 NHK BS1「国際報道2023」計2回出演
- 9月 BS朝日「つながる絵本 ~for SDGs~」
- 12月 沖縄テレビ「Dokyoハプストーリー ~沖縄同郷物語~」
- 1月 朝日小学生新聞 特別増刊号「WILLナビ next」
- 2月 FBS福岡放送「めんたいワイド」
- その他、能登半島地震支援において各局の報道番組や新聞での実績多数




ジャパンハートは、企業・団体の皆様とお互いの特長を活かした協働によって、ともに「医療の届かないところに医療を届ける」活動に取り組んでいます。ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

▶2023年度のご支援事例




**ダイワボウ情報システム株式会社**

2020年のパンデミックを機にジャパンハートの医療活動へのご支援を開始していただき、以来、5年連続で多額のご寄付をいただいております。新型コロナ収束後も私たちの「医療の届かないところに医療を届ける」活動を力強く支えていただいております。




**中外製薬株式会社**

カンボジアのジャパンハート子ども医療センターへ継続的な支援をいただいていることに加え、2025年に新たに開設予定の「ジャパンハートアジア小児医療センター」に対しご寄付をいただきました。




**株式会社ブライセン**

法人会員やマンスリー寄付を通じて継続的に支えていただいていることに加え、災害支援や新病院へのご寄付、DreamTrainへの物資寄贈と子どもたちの日常生活におけるサポートなど、長きにわたり多方面でご支援いただいております。




**株式会社三洋産業**

これまで国内外の活動に対して幅広く継続的なご支援をいただいておりますが、さらに新病院の開設に向けてのご支援もいただき、アジアの子どもたちの命を救う活動の後押しをしてくださっています。




**株式会社ジャックス**

社内のマッチング寄付制度で海外の医療活動支援を継続いただいているほか、新病院の開設にもご支援いただき、事業展開されているアジア圏の子どもたちを病から救う活動に共感を持ってお力添えいただいております。




**株式会社ケイズハウス**

カンボジアでの事業展開をご計画されているなか、ジャパンハートの東南アジアでの長年の活動、また、新病院計画のことをお知らせになり、新病院開設にご支援いただきました。



**株式会社丸和運輸機関**

災害発生時に迅速な医療支援を可能にするために2023年協定を結び、物資支援体制の強化を図っているほか、海外での医療活動として新病院開設のためのご支援もいただき、広く団体の活動を支えていただいております。



**宗教法人解脱会**

長きにわたり、法人会員様として、また募金活動を始めた多額のご寄付をいただき、ジャパンハートの国内外の活動を幅広く、継続的に支えていただいております。



**フェニックス・キャピタル株式会社**

法人会員として長年活動を支えていただいている同社からは、ジャパンハートが初めてカンボジアに病院を開設する際にもご支援いただき、今回の新病院に対しても多額のご支援をいただきました。




**J.S.Foundation**

物資のご支援を含め、ジャパンハートの活動全般に対して多額のご寄付を長きにわたり継続していただいております。継続したご支援のおかげで、私たちはどのような状況でも医療活動を継続することが叶っています。




**株式会社アップル**

引越し1件ごとに100円をご寄付いただく取り組みを5年継続していただき、年々寄付額を増額していただいております。全社員へ向けて団体の活動や寄付の便益を伝える場を設け、社員皆様はジャパンハートを応援してくださっています。




**大江電機株式会社**

他団体を通じて支援しているカンボジアの孤児院の卒園生がジャパンハート子ども医療センターのスタッフとして働いているという縁で同院をご見学され、ジャパンハートの活動、特にカンボジアでの活動にご賛同いただき、新病院へご支援いただきました。



**サンライクエステート株式会社**

店舗へのポスターやパンフレットの設置に加え、マンスリーサポーターとしてジャパンハートの活動をご支援いただいております。継続したご支援のおかげで、私たちはどのような状況でも医療活動を継続することが叶っています。



**株式会社FPパートナー**

2021年よりご支援いただいております。法人様としてのご寄付に加え、講演会を通じて社員の皆様へのジャパンハートの活動をご紹介させていただく機会や、募金活動の場のご提供もいただいております。



**吹田ロータリークラブ**

ジャパンハートの海外活動地で使用する、小児用ベッドや超音波装置の購入費用をはじめ、多岐に渡る活動について多額のご支援を継続していただき、安定した医療活動の継続をご支援いただいております。



**株式会社エレテックコーポレーション**

「SmileSmilePROJECT」を継続してご支援いただき、国内の小児がんの子どもたちとご家族が安心して旅行や外出ができるよう、活動をサポートしていただいております。



**株式会社デジタルメディアシステム**

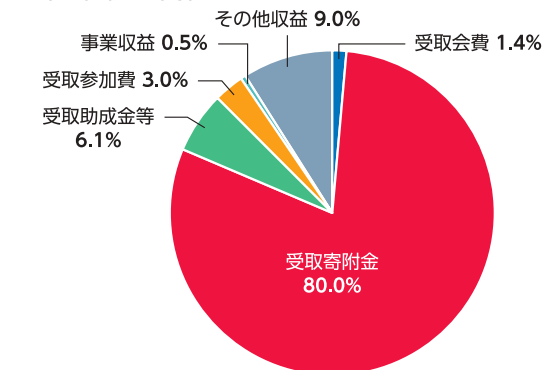
社会貢献活動をお考えになられた際に寄付先としてジャパンハートを選んでいただき、長年にわたりご支援を続けていただいております。ご寄付のほか、災害支援として物資寄付もいただいております。

会計報告

▶2023年度 活動計算書

2023年4月1日～2024年3月31日		(単位:円)	
科目	決算額	前年度決算額	
<b>I 経常収益</b>			
1 受取会費	17,236,000	18,080,000	
2 受取寄附金・資産受贈益・受取役務寄附金	989,137,447	749,368,244	
3 受取助成金等	75,808,555	26,836,170	
4 受取参加費	36,912,412	10,698,821	
5 事業収益	5,929,403	803,190	
6 その他収益	111,067,135	45,387,575	
<b>経常収益計</b>	<b>1,236,090,952</b>	<b>851,174,000</b>	
<b>II 経常費用</b>			
1 事業費			
(1)人件費	269,246,570	248,386,107	
(2)その他経費	299,847,576	363,680,164	
旅費交通費	46,431,546	31,331,095	
学業・子ども支援費	19,340,076	29,607,508	
減価償却費	29,257,502	26,499,277	
消耗品費 (緊急救援活動に係るPPE購入費用を含む)	12,967,255	116,323,885	
医療支援 (医薬品、医療資材、検査、患者物品購入)・医療器具備品費	65,024,828	56,827,652	
地代・家賃	12,498,714	13,450,419	
広告宣伝費	13,199,305	12,570,922	
その他活動に係る経費	101,128,350	77,069,406	
事業費計	569,094,146	612,066,271	
2 管理費			
(1)人件費	16,346,862	15,774,735	
(2)その他経費	27,368,627	23,079,194	
管理費計	43,715,489	38,853,929	
<b>経常費用計</b>	<b>612,809,635</b>	<b>650,920,200</b>	
<b>当期経常増減額</b>	<b>623,281,317</b>	<b>200,253,800</b>	
<b>III 経常外収益</b>			
固定資産売却益	-	-	
前期損益修正益 (過年度コロナ対応派遣業務に係る入金)	-	5,251,885	
<b>経常外収益計</b>	<b>-</b>	<b>5,251,885</b>	
<b>IV 経常外費用</b>			
固定資産売却損	-	-	
前期損益修正損 (過年度コロナ対応派遣業務に係る原価)	-	6,417,623	
過年度受取参加費返金等	900,000	3,367,183	
控除対象外消費税等	-	-	
<b>経常外費用計</b>	<b>900,000</b>	<b>9,784,806</b>	
税引前当期正味財産増減額	622,381,317	195,720,879	
法人税、住民税及び事業税	151,000	100,000	
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>622,230,317</b>	<b>195,620,879</b>	
前期繰越正味財産額	1,542,073,430	1,346,452,551	
<b>次期繰越正味財産額</b>	<b>2,164,303,747</b>	<b>1,542,073,430</b>	

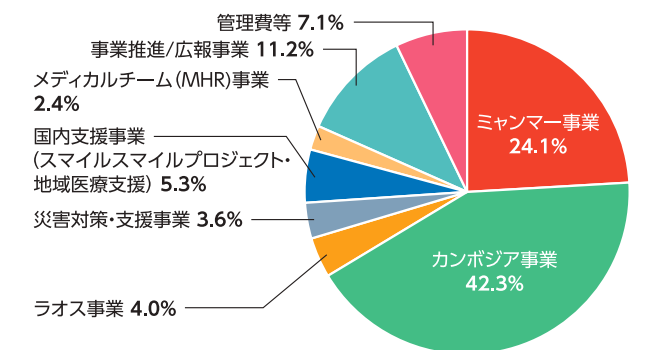
▶経常収益内訳



▶2023年度 貸借対照表

2024年3月31日現在		(単位:円)	
科目	決算額		
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金預金	1,795,121,226		
棚卸資産	625,149		
前払費用	7,841,821		
未収金	17,560,965		
その他	1,398,581		
<b>流動資産合計</b>	<b>1,822,547,742</b>		
2 固定資産			
土地	406,029		
建物	217,006,852		
建物付属設備	34,067,342		
工具器具備品	26,046,566		
ミャンマー土地賃借権	16,613,184		
敷金	2,659,299		
建設仮勘定	32,443,641		
投資有価証券	30,000,000		
その他	16,835,539		
<b>固定資産合計</b>	<b>376,078,452</b>		
<b>資産合計</b>	<b>2,198,626,194</b>		
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
前受金	-		
未払金	33,780,483		
預り金	390,964		
その他	151,000		
<b>流動負債合計</b>	<b>34,322,447</b>		
<b>負債合計</b>	<b>34,322,447</b>		
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産	1,542,073,430		
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>622,230,317</b>		
<b>正味財産合計</b>	<b>2,164,303,747</b>		
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>2,198,626,194</b>		

▶経常費用内訳 (国別、事業別)





# ジャパンハートが 大切にしている3つのこと

## 自分の人生と同じように、相手の人生を大切にする

私たちは、自他を信頼し、思い遣りの心を持ち、謙虚さを忘れず感謝することこそが、互いの人生の価値を高めると信じます。



## 社会全体の幸福最大化を常に考え行動する

私たちは、社会の一員として、今日よりよい明日を創るべく、向上心を持ち挑戦し続けます。



## 出会いを最高の価値あるものにする

私たちは、国、人種、政治、宗教など相手の境遇を問わず、出会えたすべての人に対し一丸となって最善を尽くします。



Japan  
Heart

## 特定非営利活動法人 ジャパンハート

### お問い合わせ

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局 〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-10 1510ビル3階  
TEL. 03-6240-1564 (平日10~17時) FAX. 03-3845-6530 E-mail : [publicity@japanheart.org](mailto:publicity@japanheart.org) URL : <https://www.japanheart.org>

※本書の一部またはすべてを無断で複製、転載引用することを固く禁じます。



Facebook



Instagram



X (旧Twitter)



LINE



YouTube